



▶奈良県生駒市

生駒山の森林と人々の営みを守る

生駒市内の山林がナラ枯れとイノシシの獣害に悩まされています。

具体的には、ナラ類、シイ・カシ類の樹木を枯らす病原菌（ナラ菌）と、その病原菌を媒介するカシノナガキクイムシによる樹木の病気である「ナラ枯れ」の被害が年々拡大しており、被害木の倒木による人身や家屋等財産への危険も高まっています。また、近年、イノシシによる農作物被害が増加しており、農家の経営意欲の減退により耕作放棄地の拡大に拍車をかけることも問題となっています。

生駒市では、これらの対

策に必要な財源の確保のため具体的な使い途を提示して、ふるさと納税を募集することとしました。

寄附者に対しては、寄附実績や使い途について報告するとともに、まちに足を運んでいただけるように市の観光ガイドブックを送付しています。



生駒山の全景。生駒市民にとって、生駒山は特別な存在



平成24年から広まったナラ枯れの被害市内のあちこちで見られる枯損木

注力した点や工夫した点

市外在住の生駒市出身者に、重点的に働きかけ、ふるさと生駒の自然や文化、子どもたちを守り、育てる取組に応援していただけるよう、返礼品でなく使い途に賛同していただくことを目指しています。

Check

取組の効果

ふるさと納税で集められた資金を活用し、必要な枯損木の伐倒等を行うことで「ナラ枯れ」の被害の拡大を防ぐとともに、市民の安全を確保しています。また、イノシシ対策として、捕獲檻の設置等により、年間数百頭のイノシシを捕獲することができ、農作物の被害軽減につながっています。

ふるさとを離れた市の出

身者からは、ふるさとのシンボルである生駒山を守る取組として、支援が広がっています。



ナラ枯れの木を伐採後の株も、ビニール被覆をして、カシノナガキクイムシの穿孔を防ぐ



捕獲檻に入ったイノシシ。捕獲数が増えても続く農地への被害

寄附者の声



・生駒出身ですが、帰省するたびにイノシシで荒らされる田畑が多くなっています。昔ながらの風景が続くような方策の為に活用してください。

住民の声



・生駒のナラ枯れの事を皆に知ってもらえる良いきっかけになったのではないのでしょうか。